

奈良電鐵木津川橋梁

空堀にて井筒沈下を施工し

簡單なる捲上げ装置にて鐵桁を組立たり

— 前號記事參照 —

奈良電氣鐵道株式会社 技師長 淺井 郁 爾

木津川橋梁工事

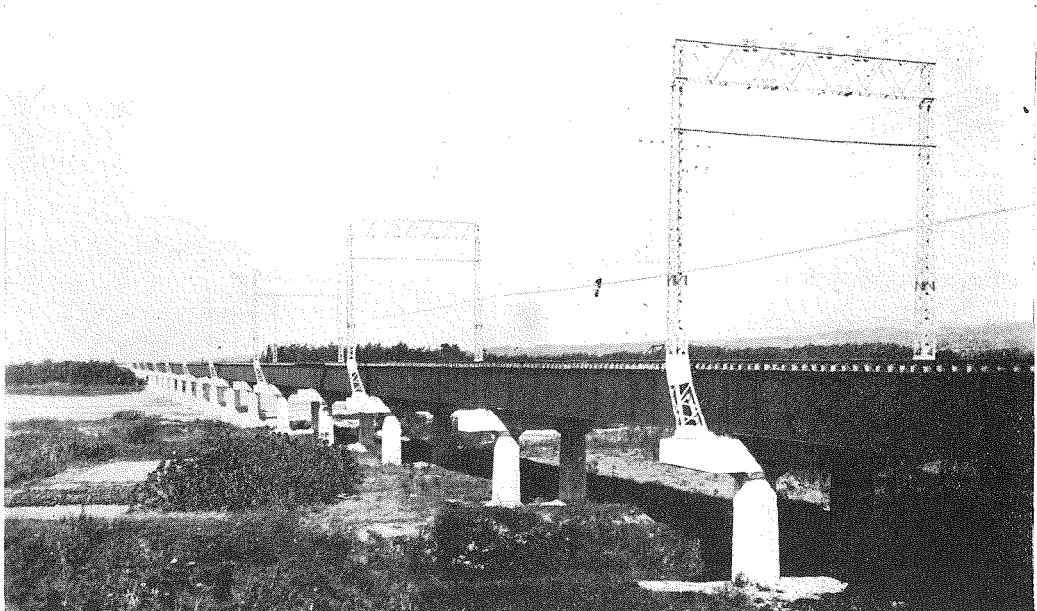
本橋は木津川を挟む京都府久世郡富野莊村字枇杷莊と、京都府綴喜郡田邊町宇濱新田間に架設し、徑間 70 呎 21 連、30 呎 1 連延長 1,618 呎にして、昭和二年十月中旬起工し、同三年六月竣功せり。

計畫大要

橋臺の基礎は杭打混凝土工にして橋脚は外徑 8 呎の井筒二本を(井筒壁厚 8 吋)を沈井し、河川の流心部九ヶ所は井筒長 35 呎にして舊地質の砂利層迄達せしめ、洪水敷筒長 25 呎とせり。橋脚は鐵筋混凝土の框構橋(表紙寫

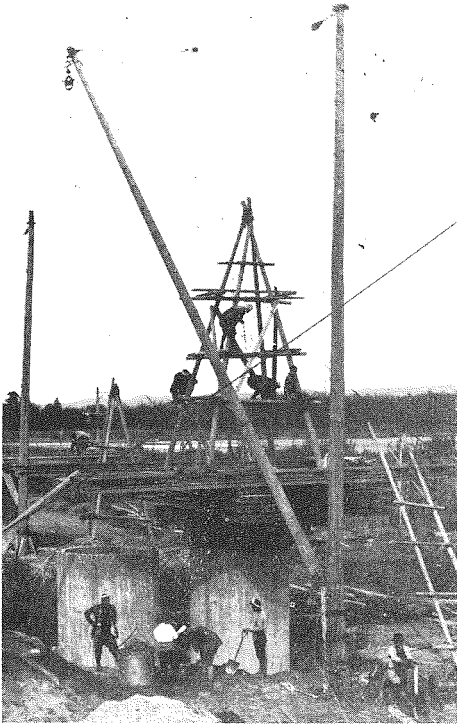
眞參照)となし、左岸より工を起し、混凝土ミキサーを川の中央に据へ、鐵製バケツをトロリ運搬なし、各現場にて木製リケットにて卷揚たり。唯兩岸の橋臺は場所練らし、基礎には木口 6 寸、長 18 尺の生松丸太杭 50 本を打込みたり。

鐵桁架設は寫眞(6)に示す如く、桁一連分の六枚を各一枚宛橋脚上まで卷揚げ、先づ片側三枚の纜手二ヶ所を假受なし、他の三枚を卷揚げ終りて附屬品の取付けをなす法に據り、幸に一度の出水もなく簡單敏速に終了するを得たり。

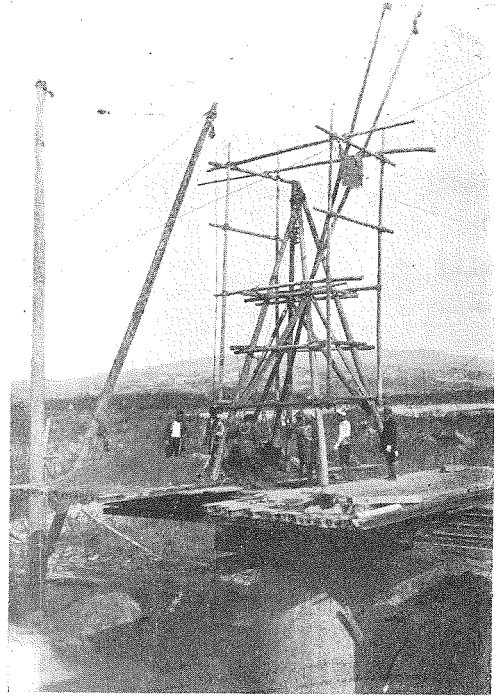


(1) 木津川橋梁竣工全景

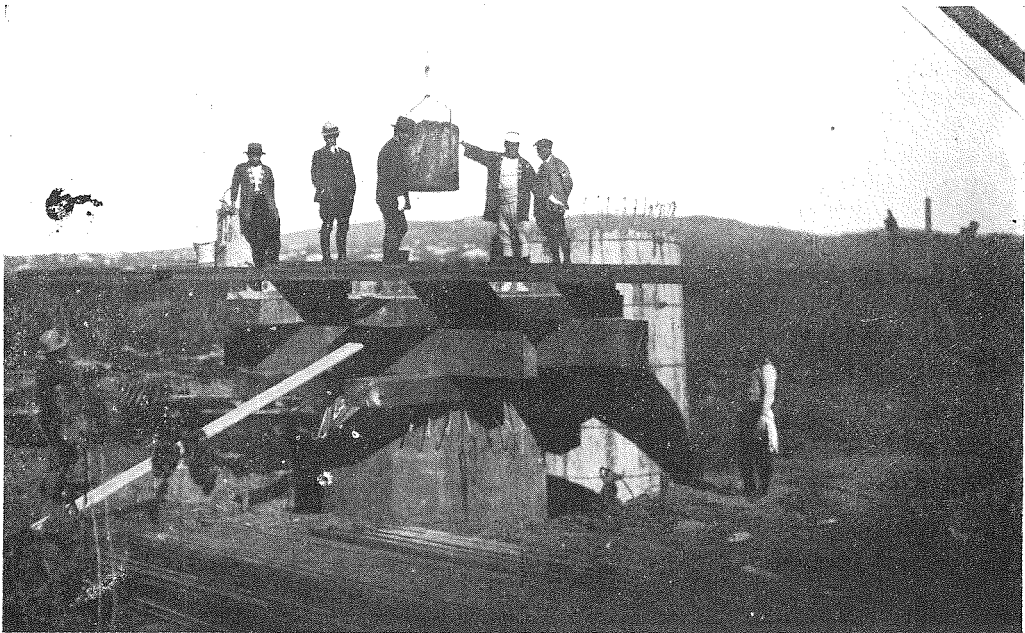
— 奈良電鐵木津川橋梁工事 —



(2) 木津川橋梁井筒沈下作業全景

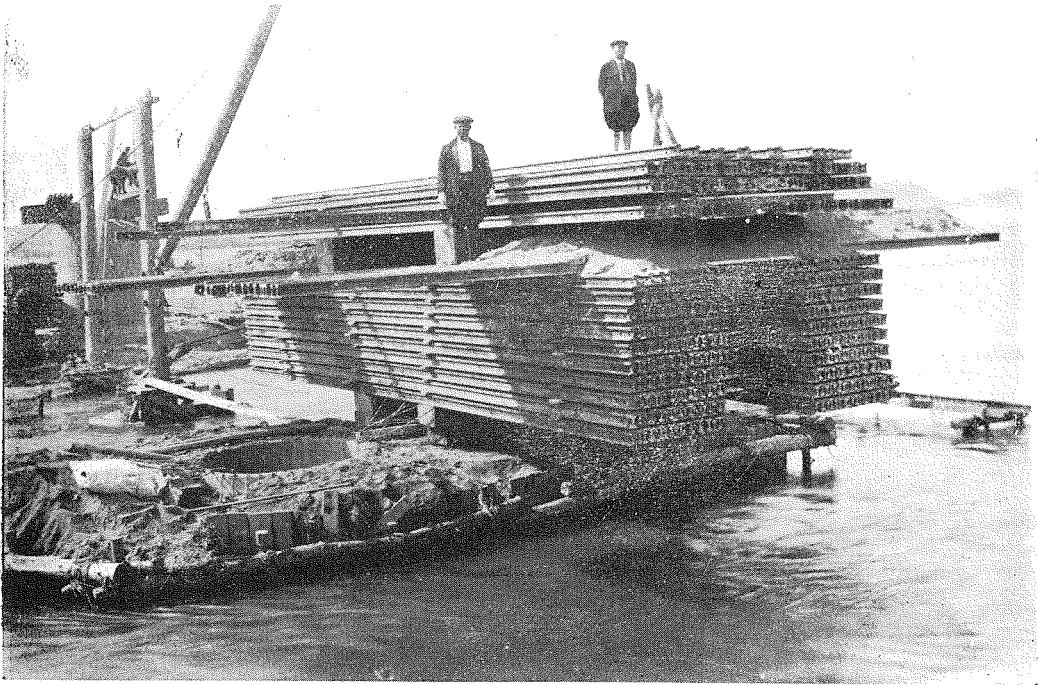


(4) 木津川橋梁井筒第二ロツトの水中堀

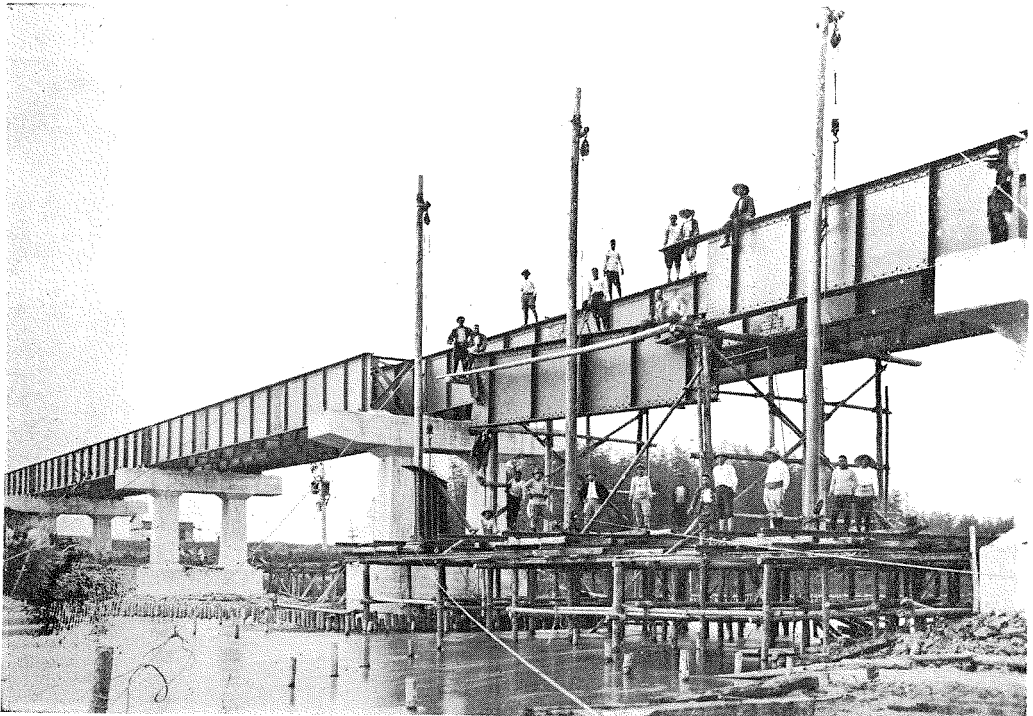


(3) 木津川橋梁井筒第一ロツトの空堀

—— 奈良電鐵木津川橋梁工事 ——



(5) 木津川橋；井筒試驗荷重(250噸)



(6) 木津川橋梁鐵桁架設の景